

ぼんおどり

明夏

死者を迎えて

共に踊る

地に足をつけ

輪になって

すぐそばに見えない円があるのを

踊りながら感じとる

我々はもともと死者で

いずれ必ず死者となる

今はたまたま生きているが

そこに大した違いはない

見えようと見えまいと

生きていようと死んでいようと

夕暮れの空のように

光と闇が混じり合って

あいまいになって

境界がぼんやりしていく

盆踊りの中で

死者は生きている

わたしは

今死んでいなければ

今生きている